

阿尾公民館祭

11月2日(土)・3日(日)に公民館祭が開催されました。

今回は、阿尾地域の皆様から、生け花や習字、手芸、写真、色紙、盆栽、菊等200点以上の作品を出展していただきました。

おかげさまで、充実した公民館祭となりました。ありがとうございました。



子供お茶会

公民館祭に合わせて子供お茶会とペタンク大会を開催しました。

子供お茶会には、お世話になった方々や家族を招待して「お運び」をしました。

ペタンク大会では、地区住民約40名が参加し、12チームで対戦しました。

公民館祭が住民の交流が深まる場となりました。



ペタンク大会



親子リンゴ狩り

11月4日(月)振替休日、指崎の扇浦農園で親子リンゴ狩りを行いました。大人18名、子供18名、計36名が参加しました。

今年は猛暑のため、上部のリンゴが落下したり、色づきが悪かったりしました。

しかし、扇浦さんの配慮で事前に3箱分リンゴを確保してくれたおかげで十分な数になり、参加者で分けました。



ハロウィーンでつまま園へ



⇒ 10月31日(火)、阿尾保育園では、ハロウィーンの仮装をしてつまま園を慰問しました。

同日、海峰小学校で、校内マラソン大会が実施されました。子供たちの元気な声が響き渡っていました。

校内マラソン大会



* 公民館主事の独り言

※参考図書：「やりたいことができる私になる自分貯金」有川真由美著 PHP 研究所

「性相近きなり、習い相遠きなり」という孔子の言葉（『論語』）があります。

人間の生まれつきの性質には大差はないが、毎日繰り返される習慣や受けた教育によって違いが大きくなる、ということです。

なにかに長けているということは、単純にそれだけ「繰り返した」ということであり、苦手なことは「繰り返していない」ということです。

前に進むこと（動くこと）、繰り返すことで、「自信貯金」は貯まります。お金の貯金と同じで、貯まれば貯まるほど、できることは増えていきます。

自分の中に貯えた自信は、使えば使うほど貯まって、決してなくなることはありません。

【 自信貯金の7つの特徴 】

- 1 あなたが「動く」だけで貯金は貯まる
- 2 やりたいことを「やる」は貯金、「やらない」は借金
- 3 借金がたまっても、あつという間に返済できる
- 4 マイナスから立ち直ると、貯金は大幅アップ
- 5 一時的に自信をなくしても、貯金はゼロにならない
- 6 ちょっと難しそうなのに挑戦すると臨時ボーナス
- 7 貯まった「自信貯金」は、何にでも使える

小さな行動を積み重ねること、これを意識すると、最初的一步が踏み出しやすくなったり、大切なことに時間をかけたり、気分を左右されずに淡々と行動できたりするようになります。

自信を取り戻すことは、自分の力を取り戻すことなのですね。

○ 12月の講座案内

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け化 (池坊)	第1・3水曜日	4日 18日	西山栄津子	10:00～ 14:00	洋室
かな書道	第1・3月曜日	2日 16日	猶明 光華	13:00～	洋室
学童茶道& 百人一首	毎週木曜日	5日 12日 19日 26日	学童支援員	15:00～	和室
手芸	第3火曜日	17日	伏木あい子	13:30～	和室
潮華会(新舞踊)	毎週土曜日	7日 14日 21日 28日	大野 朝子	19:00～	和室
潮月会(新舞踊)	毎週金曜日	6日 13日 20日 27日	大野 朝子	13:00～	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	2日 4日 9日 11日 16日 18日 23日 25日 30日		13:30～	和室
フラダンス	第1・3月曜日	2日 16日	東軒みさ子	19:00～	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	14日 28日	名苗くみ子	10:00～	洋室

○阿尾公民館からのお知らせ

・12月のふれあいランチは、阿尾地区14日(土)の予定です。指崎地区は、ありません。

○おらっちゃん風土記

阿尾薬師堂



阿尾の神葉神明宮に配祀されていたが、明治維新の神仏分離の政策によって薬師堂を建て分離した。場所は、阿尾城跡丘陵の麓、鳥居から数十メートルの海側あたりとされている。

樹影が甚だしく仏体湿気を生じ、破損したため、同志の協賛を得て、大正9年に現在の地に移築された。

以前は、千手寺(真言宗)阿尾門徒衆と西念寺(浄土宗)の門徒衆が隔年でお世話をしていた。それは、浄土真宗は阿弥陀仏だけを拝むが薬師如来等は拝まないからであった。

千手寺の阿尾門徒衆の中心的存在だった方が亡くなり、次第に西念寺(南大町)門徒衆でお世話するようになった。阿尾では、22～23戸の檀家(門徒)がある。戦後、仏像が盗まれるか何かして紛失したため島尾さんが中心となり、昭和40年頃に阿尾の檀家や、その他の人で新しく如来像を補修している。

しかし、西念寺阿尾門徒衆が高齢化し、お世話をするのが難しくなったことから、平成29年頃からは、薬師堂のお世話(境内の除草や雪囲い、お参り)を阿尾自治会に委託することになった。現在は、願生寺と徳生寺にお願いし、1年交互で5月初旬に薬師祭をしている。

※「阿尾の城跡」氷見市文化保存会発行、「竹浪軒の窓」島尾一郎、西念寺(関野)採話

江戸時代、菊池氏が前田氏に従って加賀金沢に移るときに神明宮を持っていかれた。

ある時、阿尾村に病気が流行した。村人が協議して薬師如来を村内に祀り、氏神とした。その薬師如来も年を経て傷んだので、元禄2年(1689年)京都の松井仏師に依頼して薬師如来像を造らせた。

造った像は、薬師如来、聖観音菩薩立像、十二神将であった。

また、左右の壁面には、法然上人と善導大師の掛け軸がかかっている。



薬師堂の祭壇